

YOKOHAMA

令和8年度横浜開港資料館・横浜都市発展記念館特別展

絵図で旅する 幕末の横浜

2026年(令和8年)7月18日(土)~9月27日(日)

会場: 横浜都市発展記念館 企画展示室
〒231-0021 横浜市中区日本大通12 Tel. 045-663-2424

開館時間: 午前9時30分~午後5時00分(券売は午後4時30分まで)

休館日: 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館、翌平日は休館)

観覧料: 一般: 800円 横浜市内在住65歳以上・小中学生: 400円

この料金で横浜都市発展記念館常設展および横浜ユーラシア文化館もご覧いただけます。
「身体障害者手帳」などをお持ちの方は無料です。入館の際に手帳をご提示ください。
毎週土曜日は小中学生・高校生は無料です。

主催: 公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団(横浜開港資料館・横浜都市発展記念館)

共催: 横浜市教育委員会

後援: 朝日新聞横浜総局 / 神奈川新聞社 / 産経新聞社横浜総局 / 東京新聞横浜支局 / 日本経済新聞社横浜支局 / 毎日新聞社横浜支局 / 読売新聞横浜支局 / NHK横浜放送局 / tvk / FMヨコハマ

展示概要

ペリー来航からわずか15年ほどで、静かな農漁村から国際都市へと急速な発展を遂げた幕末の横浜。その変貌の軌跡を今に伝えるのが、多種多様に描かれた絵図です。ペリー来航時の警備図面、幕府による手書きの都市計画図、プロの絵師が描いた色鮮やかな鳥瞰図、そして外国人が測量した近代的な石版地図。そのバラエティ豊かで美しい絵図の数々は、不正確な部分がありながらも不思議と見る人を魅了します。

近年、絵図を歴史資料として横浜の成り立ちを明らかにする研究が進展するとともに、幕末期の横浜に関わる新たな絵図の発見もなされています。本展では幕末横浜の絵図を一堂に集め、この時代の横浜をたどる「ガイドマップ」としながら、都市横浜のルーツを解き明かします。

展示会場では、時空を超えてやってきたハマっ子が、幕末の横浜を皆さまにご案内します。絵図を道しるべに、活気あふれる160年前の横浜を旅してみませんか。

内容構成

I 横浜誕生とその前夜

近世の横浜周辺 / ペリー来航 / 開港前夜 / 開港場の建設 / トピック 海防と海図

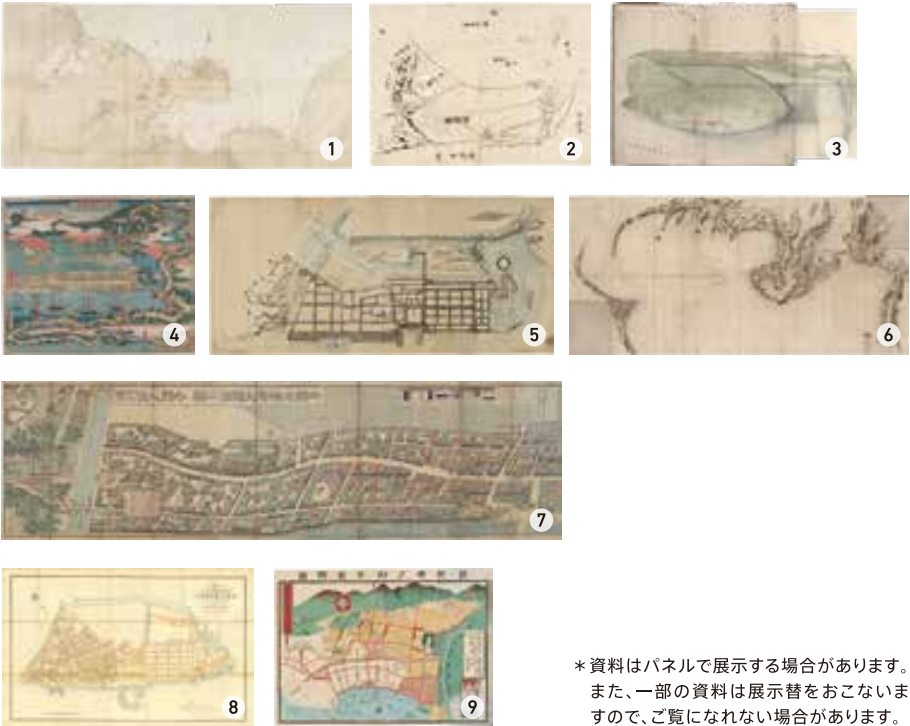
II 幕末横浜の発展

開港場の成長 / 居留地と外国施設 / 神奈川宿 / 横浜の広域図 / トピック 幕臣小笠原家の絵図

III 明治維新と開港都市

大火と政権交代 / 村の幕末維新 / 明治はじめの横浜 / トピック 開港都市の絵図

主な展示資料



* 資料はパネルで展示する場合があります。
また、一部の資料は展示替をおこないますので、ご覧にならない場合があります。

- ①「八州海岸要地之図」弘化期(1844～48)頃 横浜開港資料館蔵/海防掛が作成した関東の海岸部の状況を示した絵図。初紹介資料。
- ②「横浜村絵図」軽部紘一氏蔵/幕末期の横浜村の絵図が、保土ヶ谷宿で代々本陣をつとめた家に残されていた。
- ③「応接場御図」安政元年(1854) 横浜開港資料館蔵/ペリー来航時、横浜の警備にあたった松代藩真田家の関係者が調製した横浜近辺の絵図。
- ④「御開港横浜一覽双六」歌川芳幾画 万延元年(1860) 横浜開港資料館蔵/日本橋をふりだしに、横浜の開港場をあらわにする双六。
- ⑤「横浜之図」文久元年(1861)頃 横浜開港資料館蔵/開港間もない時期に幕府が作成した横浜の「開発計画図」。
- ⑥「再製 横浜港図」文久年間(1861～64)頃 横浜開港資料館蔵/松代藩が作成した横浜と江戸湾の広域図。
- ⑦「御開港横浜大絵図二編 外国人住宅図」文久2年(1862)頃 横浜都市発展記念館蔵/横浜浮世絵の第一人者・五雲亭貞秀が描く外国人居留地の鳥瞰図。
- ⑧「Plan of the Settlement of Yokohama」1870年 横浜開港資料館蔵/イギリス人技師ブランドンが測量した美しい横浜の実測図。
- ⑨「摂州神戸山手取開図」明治5年(1872) 横浜開港資料館蔵/1868年に開港した神戸の絵図。横浜以外の開港都市の絵図も展示する。

関連事業

事前予約制(応募多数の場合は抽選)。詳細は横浜都市発展記念館ホームページをご確認ください。

● 展示関連講座①

8月1日(土)14時30分～16時

「岩橋教章と横浜」

講師: 武田周一郎氏(神奈川県立歴史博物館主任学芸員)

会場: 横浜開港資料館講堂

参加費: 1,000円 定員: 40名

● 展示関連講座②

8月29日(土)14時30分～16時

「幕末横浜の絵図」

講師: 吉崎雅規(横浜開港資料館主任調査研究員・展示担当)

会場: 横浜開港資料館講堂

参加費: 1,000円 定員: 40名

● 特別講座

「絵図・地図で楽しくたどる幕末から戦後の横浜——関内を中心に」

8月22日(土)14時～16時

講師: 岡田直氏(元横浜都市発展記念館主任調査研究員)

武田周一郎氏・吉崎雅規

会場: 横浜開港資料館講堂

参加費: 1,000円 定員: 40名

● 展示解説

展示担当が見どころを解説します。*事前予約不要
7月19日(日)15時～・8月15日(土)15時～、
9月21日(月祝)15時～(毎回45分程度)
会場: 横浜都市発展記念館企画展示室
参加費: 特別展観覧料が必要です。

展覧会図録

横浜開港資料館・横浜都市発展記念館編『絵図で旅する幕末の横浜』(公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団発行)A4判、160頁

横浜都市発展記念館 次回特別展

「昭和100年記念 五十嵐英寿・奥村泰宏・常盤とよ子写真展」(仮)
会期: 2026年10月10日(土)～12月27日(日)
会場: 横浜都市発展記念館

アクセス



横浜都市発展記念館
Museum of Yokohama Urban History

〒231-0021 横浜市中区日本大通12
TEL.045-663-2424
ホームページ
<http://tohatsu.yokohama-history.org/>





大橋 山下公園
県庁 日本大通り駅 横浜開港資料館
みなとみらい線
馬車道駅 馬車道 関内駅 日本大通り 日本大通り駅 横浜都市発展記念館 横浜ユーラシア文化館 横浜情報文化センター 中華街
市営地下鉄線 JR根岸線 関内駅 スタジアム